SEIKO SUSTAINABILITY REPORT

社会に信頼される会社であるために。

2004 環境報告書

この環境報告書は、下記セイコー株式会社ホームページに掲載されている
内容の一部をプリントしたものです。ホームページの内容は随時改訂されます。
最新内容は下記ホームページをご覧ください。

http://www.seiko.co.jp/

この環境報告書についてのご意見・ご質問などがございましたら、下記までお問い合せください。

セイコー株式会社 CSR推進室
〒105-8459 東京都港区芝浦1-2-1 シーバンスN館
Tel. 03-6401-2111(代表) E-mail:eco@seiko.co.jp

この印刷物は、非木材紙を使用しています。

PRINTED WITH SOY INK この印刷物は、大豆油インキを使用しています。

2004年8月発行。次回発行予定2005年8月末。

セイコー株式会社

CONTENTS

ごあいさつ …… 2

基本理念
基本理念 …… 3
コーポレートガバナンス …… 3
企業倫理の基本理念 …… 4
企業倫理行動指針 …… 4

環境活動
環境方針・環境推進体制 …… 5
事業所内環境 …… 6
環境配慮商品 …… 7
関係会社の環境活動 …… 9
環境会計 …… 11

社会活動
社会貢献 …… 12
情報公開・従業員・社内啓発 …… 13

経済活動
会社概要[1] …… 14
事業概要 …… 14
新中期3ヵ年計画 …… 14

編集後記 …… 14

環境報告書の範囲

この環境報告書は2003年度（2003年4月から2004年3月まで）の取り組みを中心に作成したものです。
数値データはセイコー株式会社および主要関係会社の国内主要事業所を中心に収集・記載しています。

1 会社概要＝最新の詳しい会社概要についてはホームページをご覧ください。関係会社のホームページにもリンクしています。http://www.seiko.co.jp/

ごあいさつ

社会の新しい要請に応えるためにこの報告書をお届けします。

私たちセイコー株式会社は1881年の創業以来、いつの時代にあっても、商品・サービスの「確かな品質」によってお客様に安心と満足をお届けする会社でありたいと願ってきました。単に物を作り売るということではなく、「セイコーだから大丈夫」「セイコーにして良かった」「やはりセイコーは信頼できる」というお客様の評価により、社会に貢献したいという希望を持って事業を行ってきました。

2001年7月、セイコー株式会社は持株会社となり、関係事業会社それぞれの独自性・自立性を尊重しながら、事業間のシナジー効果の増進に努め、引き続き社会に信頼される会社であるべく連結経営を推進しています。
私は、セイコー株式会社が企業の社会的責任を全うするのみならず、さらに進んで、清潔で誠実な会社として、社会に信頼されることを期待しています。

セイコー株式会社は2004年3月企業倫理の基本理念を制定しました。
当社はこれまでも環境保全や商品の安全性などの分野では、当社の考えにもとづくコンプライアンス活動を推進してまいりましたが、これからは企業の法令遵守に加え社会倫理をより広く重くとらえ、社会的責任として新しく取り組む体制を定めました。

このたび活動の内容を「環境報告書」として取りまとめ発行することにいたしました。本号では持続可能性報告の観点から環境活動に加え社会活動の取り組みにスポットを当てご紹介しています。当社および関係会社の取り組みをご理解いただく上で皆様のお役に立てれば幸いです。

代表取締役社長

村野晃一

基本理念

基本理念

当社は、経営の基本理念を「社会に信頼される会社であること」に置いています。
これは、ことさら新しいことではなく、これまでも社員一人一人の行動、日々の業務の取り組み姿勢は、この考えのもとに実践されてきました。

社会に信頼される会社であるために。

【基本理念】

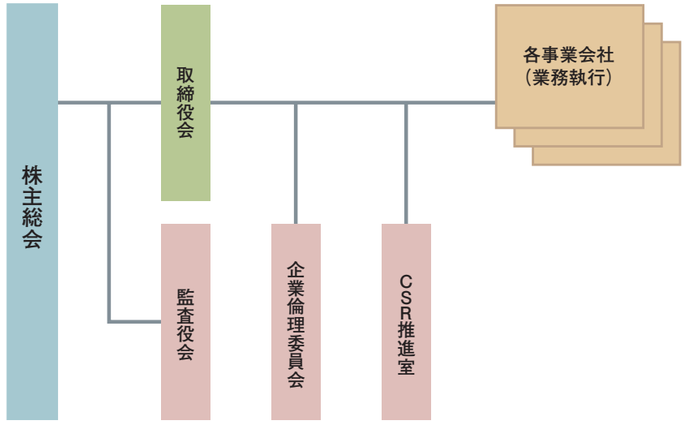
常にお客様本位の姿勢を大切にし、質の高い商品・サービスを提供します。

お客様に育てられてきた「SEIKO」ブランドの価値をさらに高めます。

経営の透明性・公正性を一層高め、環境への配慮に努めます。

コーポレートガバナンス

当社は、「社会に信頼される会社であること」を基本理念におき、経営の透明性、公正性の確保、社会倫理の尊重を重要な経営課題のひとつと位置づけています。当社は、持株会社として、事業ごとの経営責任の明確化をはかるとともに、迅速な経営判断と機動的な施策の実行を通して、経営環境の変化に対応できる組織体制[2]をとっております。さらに、企業倫理遵守体制の確保と、適正な事業活動の遂行を目的として、新たに「企業倫理委員会」を設置し、この活動を通して、役員及び社員に対し、企業倫理遵守を周知徹底し、事業活動が適正に遂行されるよう啓蒙活動を継続的に行っております。



2 取締役会＝取締役6名（内社外取締役1名）で構成されています。常勤取締役会も適時開催しています。常に事業会社の状況を掌握し、必要に応じて各社より説明を受け、迅速適切な意思決定を行うなど、各事業会社の業務執行状況の掌握に努めています。
監査役会＝監査役5名（内社外監査役3名）で構成されています。定期的に開催し、当社及び各事業会社の業務執行を慎重に見守っています。上記のほか、弁護士事務所と顧問契約を締結し、適時法的なアドバイスを受けています。

企業倫理の基本理念

当社は、行動規範として日本経済団体連合会が提唱する「企業行動憲章」を採用しており、各事業会社における同憲章の徹底、法令遵守体制の構築を通して、企業倫理の実践と企業不祥事防止に取り組んできました。この基本姿勢をさらに徹底するためあらためて「企業倫理の基本理念」を制定しました。

【企業倫理の基本理念】（2004年3月制定）

セイコー株式会社は、法律を遵守し、社会倫理を尊重し、そこから健全で良識ある企業倫理を築き、企業としての社会的責任を果たしていきます。
セイコー株式会社は、この考えを基本とし、「企業倫理の基本理念」を以下のように掲げます。

1. 事業を行う国や地域の法律やルールを遵守し、さらに社会倫理に照らし、公正な活動をいたします。
2. 良識ある「市民としての企業」をめざして、社会との調和をはかります。
3. 情報は適時開示し、誠実で、透明性の高いコミュニケーションをめざします。
4. かけがえのない地球を大切にし、環境保護に貢献します。
5. 基本的人権や人格を尊重し、企業倫理の精神を育む、視野の広い企業風土をつくります。

企業倫理行動指針[3]

企業倫理の基本理念に基づき役員及び社員の「企業倫理行動指針」を制定いたしました。

A. セイコー株式会社の事業に関する基本原則
1. 公正な競争　2. 適正な購買活動　3. 知的財産権の尊重　4. 適正な会計行為
5. 不適正な支出の禁止

B. 環境の保全
6. 環境の保全

C. 人権・労働
7. 健全な労働環境　8. 職場の秩序維持

D. 企業情報や企業財産
9. 会社情報の管理　10. 会社財産の保全　11. 広報活動

E. 社会との調和
12. 社会とのかかわり　13. 反社会勢力との関係断絶　14. 政治献金等

3 企業倫理行動指針＝詳細はホームページをご覧ください。http://www.seiko.co.jp/

環境方針と環境推進体制

環境方針と環境推進体制

セイコーは環境理念、方針、グリーン活動実施計画[4]、環境保全規格[5]に基づき、環境連絡会を中心に関係事業会社と協働・連携し、活動を推進しています。

環境基本理念（1999年4月制定）

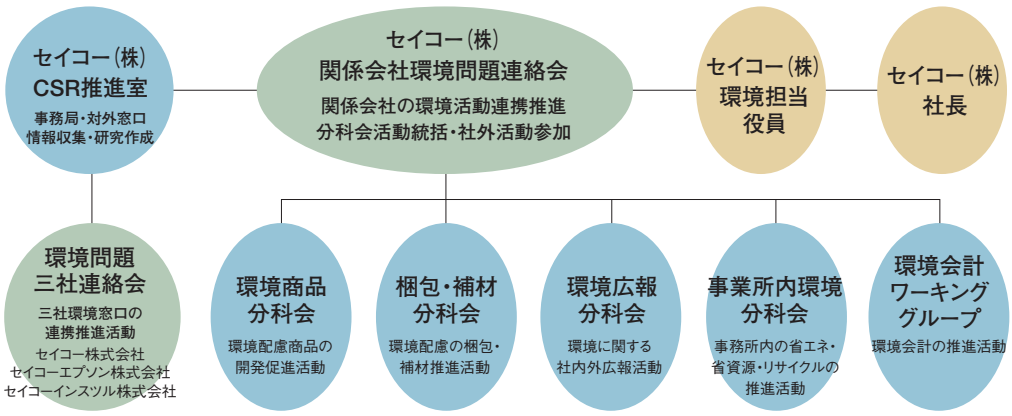
セイコーは、企業として、そして市民として地球環境を大切にし、
その保全を考え行動します。

環 境 方 針（1998年4月制定）

1. 自主管理による環境管理システムを構築し、維持・向上に努める。
2. 環境関連法規制、環境に関する地域条例、および業界の取り組みなどを遵守し、環境汚染の防止に努める。
3. 環境目的、および目標を定め、これを計画的に実行する。
4. 環境に配慮した商品の開発、および梱包材などの導入を進める。
5. 電力・事務用紙の削減、廃棄物の分別、省資源・リサイクルを推進する。
6. 教宣活動を通じて、全従業員への環境方針の理解と行動への周知徹底を図る。
7. 環境保全に対する方針・取り組み方法を広報資料に示し、社外からの要求に対しても公表する。

環境推進体制

→ セイコーの環境活動の沿革・グリーン活動実施計画 Web site[6]



関係する事業会社

国内	海外
（株）和光	SEIKO Corporation of America
セイコーウオッチ（株）	SEIKO U.K. Limited
セイコークロック（株）	SEIKO France S.A.
セイコープレシジョン（株）	SEIKO Nederland B.V.
セイコーオプティカルプロダクツ（株）	SEIKO Hong Kong Ltd.
セイコーエスヤード（株）	SEIKO Australia Pty. Ltd.
セイコージュエリー（株）	SEIKO P&C（THAILAND）Co.,Ltd.
セイコータイムシステム（株）	SEIKO CLOCK（HONG KONG）LTD.
日本プレシジョン・サーキッツ（株）	Seiko Optical Products of America Inc.
セイコーサービスセンター（株）	Seiko Optical Europe GmbH
セイコービジネスサービス（株） 他	他

4 グリーン活動実施計画＝環境に配慮した商品・梱包および事業所内環境保全推進など。
5 環境保全規格＝業界標準、国際規格などに準拠し、セイコーの商品が環境に配慮した製品であることをチェックするための社内基準。
6 Web site=セイコーのホームページをご覧ください。http://www.seiko.co.jp/

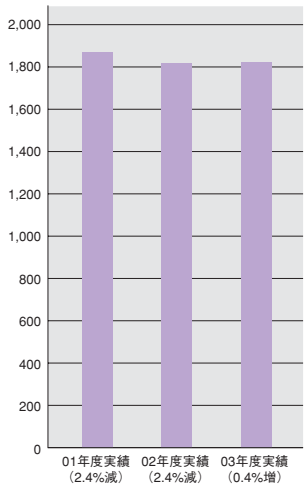
事業所内環境

省エネ・省資源対策

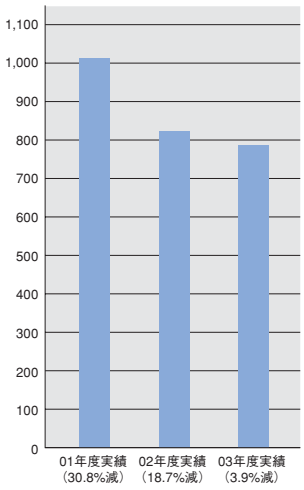
関係事業会社の主要製造事業所はISO14001認証を取得しております。全社的には、事業所内の省エネルギー・省資源対策を実施しています。事業所の移転に伴い、事務所廃棄物の03年度実績は下記物量外、保存什器など71tを処分しています。

●電力使用量（万kWh）

●事務用紙使用量（万枚）



●事務所廃棄物量（t）



グリーン購入

「グリーン購入ガイドライン」（一般用購入品）を策定しグリーン購入に取り組んでいます。セイコービジネスサービス㈱では、この取り組みを円滑に進めるため、一般事務用品エコ購買システム「べんりねっと」をセイコー㈱、セイコーウオッチ㈱、セイコービジネスサービス㈱、セイコータイムシステム㈱を始め関係事業会社への導入を推進しています。「べんりねっと」はインターネット環境を利用し、購買業務プロセスを簡素化・効率化するシステムです。購入部品など生産材については、製造事業所のあるセイコープレシジョン㈱、セイコークロック㈱などで「グリーン購入ガイドライン」（生産用購入部品・製品）を策定し、グリーン購入を推進しています。

化学物質管理

セイコープレシジョン㈱、セイコークロック㈱ではPRTR[7]など化学物質の総合管理を行っております。また商品に使用している、はんだの鉛を全廃するために鉛フリーに取り組んでおります。

PRTR調査届出対象物質

集計期間：2003年4月1日～2004年3月31日　単位：t

CAS No.	物質名	取扱量
75-09-2	ジクロロメタン	27.75
ー	ふっ化水素及びその水溶性塩	4.40
108-88-3	トルエン	3.90
1330-20-7	キシレン	1.03

7 PRTR=Pollutant Release and Transfer Register- 有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源からどのくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物中に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し公表する仕組み。

環境配慮商品

環境に配慮したウオッチの商品開発

セイコーウオッチ(株)では、電池寿命の長い商品や電池交換が不要な商品開発に取り組み、省エネルギー型で使用済電池の出にくい商品開発を推進しています。人間のさりげない動きを電気エネルギーに変換し時計を動かす世界初の自動巻き発電システムーキネティックとキネティック オートリレー、電池不要の機械式時計の利点とクオーツ時計の利点を併せ持ったスプリングドライブ、太陽光などの光エネルギーを電気エネルギーに変えて駆動させるエコテックソーラー、最長で10年寿命の電池を採用したパーペチュアルカレンダー、電池をつかわないメカウオッチなど多彩な商品群を展開しています。

環境に配慮したストップウオッチの商品開発

セイコーエスヤード(株)では、2001年のグリーン購入法制定などにより、市場から高まりつつある要望に応えソーラーストップウオッチを開発2004年3月発売しました。(財)日本環境協会が環境保全に役立つ商品に認定している「エコマーク」を取得し、商品の環境情報を社会に提供し、学校・官公庁・自治体などのグリーン購入を促進しやすいよう配慮しました。

環境に配慮したクロックの商品開発

セイコークロック(株)では、電池寿命が5年～7年と長い商品や、太陽光を使用し電池交換が不要な商品開発に取り組むことにより、省エネルギー型で廃棄電池の削減を推進しました。

環境に配慮した設備時計の商品開発

セイコータイムシステム(株)は風力、太陽光(ソーラー)など自然の力をエネルギーとした設備時計「エコモニュメント」などを開発しています。さらに白色LEDを内部照明に利用したことにより消費電力を抑え、「ソーラー」・「風力」などの再生可能なエネルギーで駆動する環境に配慮したアウトドアクロック「エコ・クロック」を発売しました。

東京国際展示場(東京ビッグサイト)
エコモニュメント

ペーパーレス化に貢献する時刻認証・配信ビジネスの開発

セイコー(株)とセイコープレシジョン(株)はセイコーインスツル(株)と共同し、ペーパーレス化に貢献する電子商取引のための、時刻認証・配信ビジネスを展開しています。昨今のデジタルネットワークの整備や電子商取引の急速な普及に伴い、時刻情報の信頼性が求められる「時刻認証」などのタイムビジネスの重要性はますます広がるものと見られています。正確な時刻をネットワーク・サーバに配信し、電子データの改ざんを防ぐことで、電子データでの決済・入札などが可能になり、ペーパーレス化推進の一翼を担っています。

Cyber Time SEIKO

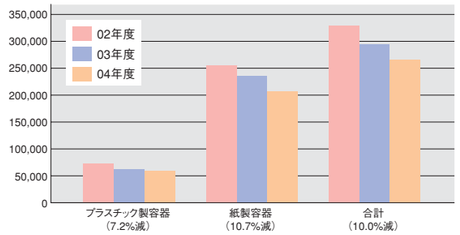
クリーンエネルギーを使ったタイムレシーバの開発

セイコープレシジョン(株)の開発した無線タイムレシーバは、太陽光のエネルギーを電気二重層コンデンサに蓄えて動作し、長波電波の受信および特定小電力無線による時刻配信をいたします。電気二重層コンデンサは、有害物質(ニッカド・鉛)を含まない、環境性に優れたクリーンエネルギーを供給します。

環境に配慮した包装容器推進

化粧箱の非塩ビ素材への切り替えおよび減量化に取り組んでいます。また、分別リサイクルしやすいよう、容器包装への識別表示・材質表示をガイドラインを作成し推進しました。取扱説明書・保証書・プライスシール・カタログ類などをリサイクル紙利用に切り替えております。販促物であるトレーやディスプレイ類は脱塩ビ化を計っています。また商談会での「極力廃材を出さないブース作り」を推進しています。

●容器包装排出見込み量(kg)



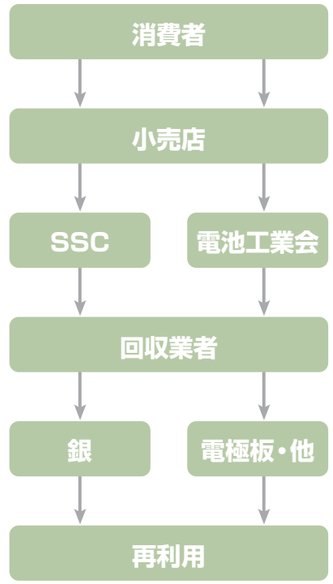
環境に配慮した物流

セイコーウオッチ(株)・セイコークロック(株)ではデパートや量販店への他社との共同配送により輸送時の環境負荷を50%以上削減しました。また通い函の減量化を図り廃棄物の削減を推進しました。セイコークロック(株)では物流拠点の統合を推進しました。

リサイクルシステム

セイコーサービスセンター(株)では、国内の小売店で交換されたウオッチの使用済ボタン電池の回収を1980年4月から業界に先駆けて実施しています。回収した電池は分解され銀と電極板に分別されリサイクルされています。
セイコーオプティカルプロダクツ(株)は業界団体の「レンズリサイクルシステム」に参加し眼鏡店におけるメガネレンズ廃棄物の回収・リサイクルサービスを全国で展開しました。これは、眼鏡小売店で発生するプラスチック及びガラスの不要レンズやレンズ研削粉を回収し、セメント用混合原料、タイル、縁石、舗装用材料として再利用しようとするものでレンズ製造メーカー各社がこのレンズリサイクルシステムの普及のため、広く業界内に紹介活動を行っております。
セイコーエスヤード(株)では電気シェーバーなどに利用しているニッカド電池など二次電池の再利用のため㈳電池工業会 小型二次電池再資源推進センターへ加入し、他業界と協動して二次電池の回収、啓蒙活動を行なっています。あわせて二次電池を取り出しやすい製品設計、部品への使用材質表示をすることなど資源のリユースの容易化に取り組んでいます。

●使用済み電池回収の流れ



関係会社の環境活動

㈱和光

連絡会委員　町田 利裕

和光は、国際性豊かな洗練された大人の街、銀座を代表する高級専門店です。特に下記の課題に全社を挙げて取り組んでいます。

❶梱包、補材についての「識別マーク」表示
表示ガイドラインを作成し、紙製容器・包装、プラスチック製容器・包装についてお客様が容易に分別できる表示を徹底し、識別マーク付梱包材への切り替えが完了しました。

❷事務所内でのゴミの減量化と再資源化
「回収3段BOX」を事務所内に設置し、再資源化に取り組んでいます。「オフィス町内会」[8]に参加しています。

❸物流センターにおける取組み
梱包材料使用削減活動、梱包材料リサイクル活動を推進しています。保存文書廃棄は焼却方式からリサイクル可の溶解方式にシフトしました。

❹社会貢献（地域清掃活動への参加）
地域の町内会や警察署の主催する「地域清掃活動」に参加しています。

❺その他
2003年度5月から9月に時計塔の外部照明時間を短縮、6月には都内主要建築と足並みをそろえ一斉消灯を実施しました。

セイコーウオッチ㈱

連絡会委員　室田 浩一

セイコーウオッチでは環境委員を各部から選任し、関係各社と協調しながら活動しました。

❶環境商品エコラベルについて連携・検討しています。

❷容器包装の減量化・表示に取り組んでいます。

❸事務所内省エネ・事務用紙と排出ゴミの削減に取り組んでいます。

❹「べんりねっと」を導入し、グリーン購入を促進しています。

セイコークロック㈱

連絡会委員　小堀 道夫

セイコークロックは、製造・販売が一体になったクロックメーカーです。

❶環境商品
ソーラークロック2機種を追加発売しました。

❷環境
グリーン購入を継続しました。

❸社会貢献
ザ・ナショナルトラスト[9]商品を継続しました。

❹遵法
コンプライアンス委員会を設置しました。

セイコープレシジョン㈱

連絡会委員　野川 俊明

セイコープレシジョンは、カメラシャッターを始めとした電子デバイス関連事業、ソリューション関連事業など総合情報精密分野の商品を提供しています。

❶国内の全事業所・営業所でISO14001を拡大登録しました。

❷エコプロダクツ基準を制定し、環境配慮型商品の創出を推進しています。

❸鉛フリー活動を推進しています。

❹グリーン購入ガイドラインを見直し、グリーン購入活動を推進しています。

❺環境会計試算を継続しています。

セイコーオプティカルプロダクツ㈱

連絡会委員　脇田 稔

眼鏡事業を展開するセイコーオプティカルプロダクツでは、レンズリサイクルシステム、販促・事務所内環境活動などに取り組んでいます。

❶業界団体と連携し「レンズリサイクルシステム」を促進しています。

❷出荷時の省資源を実施しています。

❸商談会での「極力廃棄物を出さないブースつくり」など販促での活動を実施しています。

セイコーエスヤード㈱

連絡会委員　大道 敏行

ゴルフクラブ、メトロノーム、電気シェーバーなどを取り扱うセイコーエスヤードでは、環境に配慮した商品作りや事務用品のグリーン購入に取り組んでいます。

❶梱包材料の減量化、省資源に取り組んでいます。

❷電気シェーバーなどの2次電池の回収リサイクルシステムに加入し、回収リサイクルを促進しています。2次電池が取り出しやすい製品設計、部品への材質表示を推進しています。

❸環境商品を推進しソーラーストップウオッチでエコマーク[10]認証を獲得しました。

セイコージュエリー㈱

連絡会委員　礒川 英俊

ジュエリーの商品企画から開発・輸入・販売までを総合的に行う専門商社であるセイコージュエリーでは、販売促進面での環境活動や事務所内での環境活動を推進しています。

❶ラザールキャプラン社と提携したラブアースダイヤモンドキャンペーンではWWF[11]に売上金の一部を寄付しました。

❷修理に使う廃液や排出ゴミのリサイクルに努めています。

❸「べんりねっと」の導入を計画中です。

セイコータイムシステム㈱

連絡会委員　正谷 民夫

設備時計、からくり時計、スポーツ計時計測機器などを扱うセイコータイムシステムでは環境に配慮したエコマーク商品の開発や事務所内環境活動に取り組んでいます。

❶梱包材の削減や使用済小型二次電池の回収リサイクルに取り組んでいます。

❷ISO14001を2005年1月までに認証取得する予定です。

セイコーサービスセンター㈱

連絡会委員　西川 泰樹

セイコーサービスセンターはセイコーウオッチ㈱が販売する商品の修理や補修用部品販売などのアフターサービスを行なっている会社です。関係会社と連携しながら環境保全活動に取り組んでいます。

❶電池販売において、使用済電池回収に継続して取り組んでいます。
流通在庫の縮小も進んでいます。

❷市販バンドの包装材に分別・材質表示、再商品化委託しています。

❸ケース、プラスチックカバー、紙台紙に材質表示を行うと共に、「容器包装リサイクル法」による再商品化委託を実施しています。

❹事業所内環境については、電力量削減に重点的に取り組んでおり、不在時の消灯の徹底など身近なところから節電活動を推進し、電力使用量が大幅に前年を下回りました。

セイコービジネスサービス㈱

連絡会委員　野中 友明

オフィスサービス会社であるセイコービジネスサービスでは関係各社の事務所内環境活動をサポートしています。

❶「べんりねっと」の導入を促進しています。

❷電力・事務用紙・排出ゴミの削減を促進しています。

8 オフィス町内会＝地域の事業所が古紙共同リサイクルなど、ノウハウシステムの共有により、古紙の分別回収をスムーズに行う。
9 ザ・ナショナル・トラスト＝1895年に英国で設立された環境保護団体で歴史的建造物や価値ある自然を大切に守り、それを私達の未来に残そうとするものです。
10 エコマーク＝（財）日本環境協会が認証する「環境保全の面でより良い商品」を選びやすいようにするエコラベル。
11 WWF=World Wide Found for Nature（世界自然保護基金）。1961年に設立された世界最大の民間自然保護団体。絶滅の危機にある動植物の保護や、環境問題に取り組んでいます。

環境会計

当社では、環境保全活動を実施したことに伴い発生するコストと効果を適切に測定し、環境経営を推進するために連結ベースでの環境会計の試算を行っています。

2003年度の集計結果について

2003年度の環境保全投資額は、240万円、費用額は7,090万円になりました。主な内容は、環境保全効果では電力削減効果昨年比4.3%減、廃棄物の有価売却昨年比260%増でしたが、生産量の増加、事業所移転などにともない経済効果は、4,940万円でした。集計は、環境省の環境会計ガイドラインを参考にして策定した社内ガイドラインに基づいています。

セイコー株式会社・関係会社の環境保全コストとその効果の状況

集計範囲：セイコー株式会社及び関係会社10社　対象期間:2003年4月1日～2004年3月31日 単位百万円

環境保全コスト分類（主な取り組みの内訳）	投資	費用額	前年度投資	前年度費用額	差異
1. 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷抑制コスト	2.4	27.0	2.9	19.1	7.3
（内訳）　公害防止コスト　（大気汚染防止・水質汚濁防止）	(1.1)	(4.1)	(1.4)	(4.2)	－0.3
地球環境保全コスト　（省エネ・温暖化防止）	(1.3)	(0.1)	(1.6)	(0.3)	－0.5
資源循環コスト　（廃棄物減量化・リサイクル）		(22.7)		(14.7)	8.1
2. 生産・サービス活動により上流下流で生じる環境負荷抑制コスト		7.2		1.9	5.3
（内訳）　グリーン購入		(6.7)		(0.0)	6.7
リサイクル（電池・容器包装）		(0.5)		(1.9)	－1.4
3. 管理活動における環境保全コスト		27.3		26.6	0.6
（内訳）　環境教育・啓蒙		(3.7)		(3.0)	0.7
環境マネジメントシステムの構築		(23.5)		(23.6)	－0.1
4. 社会活動における環境保全コスト		8.9		12.5	－3.5
（内訳）　WBCSDなど会費		(3.7)		(6.2)	－2.5
環境報告書など		(4.6)		(5.5)	－0.9
地域活動等		(0.6)		(0.7)	－0.1
5. 研究開発活動における環境保全コスト		0.6		0.5	0.1
（内訳）　鉛フリーなど		(0.6)		(0.5)	0.1
6. 環境損傷コスト		0		0	0.0
合　計	2.4	70.9	2.9	60.6	9.8

環境保全効果の内容	効果	経済効果	前年効果	前年経済効果	差異
1. 事業エリア内で生じる環境保全効果（事業エリア内効果）		48.2		110.4	－62.2
（内訳）　公害発生防止					
事務所内省エネルギー効果（電力）	211万kWh減	(—)	382万kWh減	(88.7)	－88.7
事務所内省資源効果（事務用紙）	—	(—)	45万枚減	(0.5)	－0.5
事務所内廃棄物効果（排出ゴミ）	—	(—)	570t減	(2.5)	－2.5
廃棄物の有価物売渡益	1,447t	(48.2)	401t	(18.7)	29.5
治工具等の再利用				—	
2. 上・下流で生じる環境保全効果（上・下流効果）		1.2		2.4	－1.2
（内訳）　取引先調査を通した環境保全遵守の要請		(0.6)		(—)	0.6
使用済電池回収リサイクル	0.7t	(0.3)	1.9t	(1.7)	－1.4
容器包装の減量	30t減	(0.3)	33t減	(0.7)	－0.4
物流効率化				—	
3. その他の環境保全効果		—		—	—
（内訳）　各種セミナー・社内報等を通した社内啓蒙の実施					
ISO14001維持管理活動					
連絡会を通した関係会社間の連携・協働					
WBCSDを通した国際産業界内の連携					
業界団体を通した業界内の連携					
環境報告書等を通じた環境情報開示の充実					
地域活動を通した地域社会との連携					
鉛フリー技術の推進					
合　計		49.4		112.8	－63.4

社会貢献

スポーツ計時支援活動

1964年はじめてオフイシャルタイマー（公式計時）を務めた東京オリンピックで世界に先駆けて総合的な電子計時システムを導入し、計時の精度を画期的に高めました。以来、国内外のスポーツ大会への支援をつづけています。

セイコー時計資料館

セイコー時計資料館は、1981年にセイコーの創業100年を記念して創設されました。日本の時計産業の過去から現在を考えるための研究施設として社会に貢献することを趣旨とし、標本資料、文献資料ともに国内でも有数の規模を誇ります。

ザ・ナショナル・トラスト商品

セイコークロック㈱では、イギリスの環境保護団体であるザ・ナショナル・トラスト[12]のライセンス商品の販売により日本での環境保護活動に貢献しています。

The National Trust
for Places of Historic Interest or Natural Beauty

WBCSD

世界の主要企業約160社で構成するWBCSD[13]は、環境保全、経済成長の調和に向けて、グローバルな視点で提言活動を行っている世界の産業界を代表する社会・環境団体です。当社はセイコーエプソン㈱・セイコーインスツル㈱と共に加盟しています。

World Business Council for Sustainable Development

WBCSDについて

WBCSD（World Business Council for Sustainable Development）は、1995年に結成され、その理念は、母体の一つであるICC（International Chamber of Commerce国際商業会議所）から発表された「持続的発展のための産業界憲章ー環境管理の原則（The Business Charter for Sustainable Development ーPrinciples for Environment Management）を基本としております。世界の産業界を代表するNPO（非営利団体）として国連・OECD・世界銀行などの国際機関に影響力を持ち国際社会に大きな存在感を保っています。

12 ザ・ナショナル・トラスト＝1895年に英国で設立された環境保護団体で歴史的建造物や価値ある自然を大切に守り、それを私達の未来に残そうとするものです。
13 WBCSD=詳しい情報はホームページをご覧ください。http://wbcdd.ch/

情報公開・従業員・社内啓発

情報公開

2003年9月、前年に引き続き「2003年環境報告書」を、ホームページに掲載しました。また英語版も掲載し、さらに主要環境関連サイトにリンクを行いました。

従業員

福利・厚生面では関係会社の参加も得て、健康保険組合、カフェテリアプラン、確定拠出年金や持株会などを運営しております。人事面では、自己申告制度や、目標管理制度を各社で運用しています。

教育

関係事業会社の各層を対象に、各種視点からセミナー・講習会を開催しています。

社内啓発

社内にグリーン活動を徹底するために社員よりグリーン川柳を募集しました。一部をご紹介します。

【第六回】グリーン川柳入賞作品

最優秀作品

負うた子に言われてゴミを持ち帰り

エレベータ2階のボタンはそっと押し

優秀作品

しまってたコートを出せば最先端

冷房のスイッチめぐり熱上がり

分別の数だけ並ぶゴミバケツ

たまるゴミこれが貯金の利子ならば

会社概要・事業概要・新3ヵ年計画

会社概要[14]

【社名】
セイコー株式会社

【創業】
1881年（明治14年）

【資本金】
100億円

【従業員数】
58名（2004年3月31日現在）
6,957名（2004年3月31日現在連結）

【売上高】
64億円（2004年3月期）
2,098億円（2004年3月期連結）

事業概要

セイコー株式会社は、完全持株会社としてウオッチ、クロック、カメラ用シャッター、半導体・電子デバイス、眼鏡、スポーツ・トイレタリー事業などを関係事業会社を通じて展開しています。それぞれの事業の独自性・自立性を尊重しつつ、事業間のシナジー効果を発揮させ、「SEIKO」のブランド力を高めつつ、連結経営を推進しています。

新3ヵ年計画[15]

当社は現在2004年3月期から2006年3月期までの「新中期経営計画（連結・3ヵ年計画）」を推進中です。財務目標として、「事業収益力の強化」・「株主資本の充実」・「借入金のさらなる圧縮」を目指しています。

14 会社概要＝最新の会社概要はホームページをご覧ください。関係会社のホームページにもリンクしています。http://www.seiko.co.jp/
15 新三カ年計画＝詳細はホームページをご覧ください。http://www.seiko.co.jp/

セイコー株式会社
専務取締役 前田 邦男

編集後記

これまで当社はセイコー㈱及び主要関係会社の環境保全活動をご紹介する環境コミュニケーションのツールの一つとして「環境報告書」を発行してきました。しかし、近年企業に対する社会的な要請として社会活動の情報公開を求める声も強く、環境面のみならず社会面の情報もご報告いたします。報告書は日本語版に続き、英語版も発行し、世界のステークホルダーの皆様にご理解いただけるよう努めてまいります。また、報告書ではページ数が限られておりますので、当社及び関係会社ホームページを併せてご覧いただきますようご案内申し上げます。